

「福岡県小郡三井地区における糖尿病薬薬連携（小郡七夕薬薬ネットワーク）構築と  
保険薬局における療養指導機会増加の試み」

○佐藤 正規（サトウ マサノリ）1、石井 美帆（イシイ ミホ）2、山本 隼也（ヤマモト  
ジュンヤ）3、白木 秀和（シラキ ヒデカズ）4、満安 徹也（ミツヤス テツヤ）4、大池 貞  
治（オオイケ サダハル）5、坂本 則子（サカモト ノリコ）6、西岡 恵子（ニシオカ ケイ  
コ）6、赤司 朋之（アカシ トモユキ）7

1 総合メディカル(株) そうごう薬局小郡中央店

2 総合メディカルグループ (株)北野調剤薬局

3 総合メディカル(株) そうごう薬局大刀洗店

4 (一社) 久留米三井薬剤師会

5 医療法人社団シマダ 嶋田病院薬剤科

6 医療法人社団シマダ 嶋田病院看護部

7 医療法人社団シマダ 嶋田病院内科

**【背景】**糖尿病は国内に 1000 万人(糖尿病疑い含む)いると言われ、代表的な生活習慣病の一つである。しかし糖尿病専門医は全国で 4760 人しかおらず、専門医が全ての糖尿病患者の診療に関わることは難しい状態にある。そのため、糖尿病療養指導士の資格等を設け、多職種で糖尿病患者を支援する取組みが全国で進められている。当薬局がある小郡地区でも、嶋田病院糖尿病チームが中心となり、地域の診療所や薬局等を巻き込んだ糖尿病療養指導の理解浸透を進めている。平成 24 年より開始された「小郡七夕薬薬ネットワーク」では、当薬局と嶋田病院糖尿病チームが中心となり、隔月で定期勉強会を開催し、薬物療法に限らず、療養指導に必要な事柄について学んでいる。

**【目的】**今回、小郡七夕薬薬ネットワーク設立後 6 年間のなかで、保険薬局での糖尿病療養指導の機会増加のために行っている取り組みについて報告する。

**【方法】**隔月開催の定期連絡会では、糖尿病療養指導の知識を深める為の専門医の講義と、専任の看護師が地域に配布する年 6 回発行の療養指導パンフレットについての解説、薬局で指導する際にポイントとなる内容を学んでいる。また、参加した薬局薬剤師に対し、定期的にアンケートを行ない現状調査を行った。

**【結果】**定期連絡会は 2018 年 10 月までに 38 回実施した。参加薬剤師は回を追うごとに増加し、述べ 1356 名となった。第 11 回に参加した薬局薬剤師へのアンケートでは、糖尿病という病気に対して「興味がある」という程度の結果だったが、第 38 回のアンケートでは、6 回以上継続して参加している薬剤師は 65%となり、糖尿病療養指導士資格保有者数も 2 名から 13 名と増加した。また、

資格未取得者の約 35%が糖尿病療養指導士取得を希望していた。

**【結論】**定期連絡会開始前当初は、糖尿病治療自体に関心はあるものの、具体的な指導内容まで理解が深まっていなかったが、現在は研修内容を受けて、糖尿病の病態説明や合併症予防の声掛けや具体的な指導を行うなど、連絡会発足後 6 年間で、徐々に小郡地区保険薬局での糖尿病療養指導が地域に浸透し、実施機会が増加している。今後は糖尿病療養指導士の資格取得のフォローにも力を入れ、地域全体での更なる糖尿療養指導の質の向上に貢献したい。

(本文 文字数 925 字)